

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもと真剣に向き合い、共に考える姿勢が育成の基盤となっています
	内容	子どもが自分の希望や気持ちをどのように表現したいかを丁寧に聴き取り、職員が一時的に対応するのではなく、「どうしたらできるか」を共に考える姿勢を重視しています。例えばお菓子の袋が開かない場合、すぐに手を出さず子ども自身に方法を考えてもらい、試行錯誤する過程を見守ります。また、言葉でうまく表現できない子どもには少しづつ思いを言葉にってもらう支援を行い、気持ちに寄り添いながら共に考える体験を積み重ねます。こうした取り組みを通じて、子どもが自ら考え、判断し、他者と関わり協力する力を培うことを大切にしています。
2	タイトル	子どもや保護者の意見を取り入れ、安心して楽しく過ごせる場を実践している
	内容	クラブは単に学業終了後に子どもを預かる場ではなく、「子どもが安心してのびのびと楽しく過ごせる場」を中心に運営しています。時間を過ごすだけでなく、有意義な空間となるよう、子どもや保護者の意見を丁寧に聴き取り、職員が工夫を凝らして実践しています。その成果はアンケートでも非常に高く評価されており、子どもが主体的に関わり、安心して成長できる環境が整えられています。来年度は学校校舎内への移転により環境が変化しますが、この基本姿勢を堅持し、安心・安全で楽しい活動の場として提供し続けることが大いに期待できます
3	タイトル	法人・クラブは職員の資質向上に努め、子どもの育成に取り組んでいる
	内容	法人は職員の資質アップに積極的に取り組み、資質向上のために外部での研修参加、内部研修、主任研修、全職員の研修、事例検討会、月次の作業療法士によるアドバイス、放課後指導支援員資格取得への援助等を実施して、パート職員も含めての資質の向上、「育成」への理解に努めています。またクラブでも職員に子どもの姿を否定的や指導的に捉えず、「其のまま」に受けとめていくことを共通の認識としていくことを目指して指導しており、子どもに対しても生活の中で自分で考えて行動するように促していくことを基本としています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員の自主性を育むため、当学童クラブ自身による計画策定が期待されます
	内容	法人の各学童クラブは行政からの委託に基づき運営されており、将来的な展望が見えにくいことから、中長期的な計画は策定されていません。単年度計画も育成計画を除けば大筋は運営主体が策定し、全クラブで共通のものとなっています。委託期間も短く、運営主体およびクラブは職員が育成に専念できる環境を整え、子どもが安心して過ごせる時間を提供する姿勢を持っています。しかし、各クラブの置かれた環境は異なるため、職員やクラブの自主性をさらに育む観点から、運営面も含めたクラブ自身による事業計画の策定が期待されます。
2	タイトル	学童クラブの魅力を伝えることで、学校や地域との連携が強まることが期待されます
	内容	コロナ禍以降、近隣大学の学生実習受け入れや地域関係者・家族の参加による運営委員会での意見聴取、学校や警察との協力による通学路の安全点検など、クラブの地域との関わりは徐々に広がってきています。しかし、クラブの透明性を高める仕組みや地域との交流をさらに活発化させる段階には至っていません。今後はクラブの意義や魅力、機能を適切に伝える工夫も必要です。来年度は学校外から学校内への移転が予定されており、この機会を活かして地域との関係を深めながら、クラブの持つ存在価値を広く発信できるよう期待されます。
3	タイトル	ヒヤリハット事例の分析による安全対策の徹底が期待されます
	内容	学童クラブでは子どもの事故は起こり得るものとして認識しており、大きな事故につなげないための予防策が重要です。そのため、日々の活動の中で発生したヒヤリハット事例を日誌に記録し、職員間で共有しています。これにより、同様の状況でのリスクを事前に把握し、注意喚起や対応方法の改善につなげることが可能です。記録された情報を分析・活用することで、安全管理の向上や事故再発防止策の具体化が図れます。今後もヒヤリハットの情報を積極的に活かし、予測可能なリスクを未然に防ぐ体制をさらに強化していくことが期待されます。